

ナヴァラトゥリーの紹介

2018年10月9日火曜日～10月18日木曜日

ナヴァラトゥリーは「九夜」を意味し、インド中で何世紀も行われてきたお祭りです。ナヴァラトゥリーは、デーヴィー、つまり偉大な女神と神聖なる母、あらゆるものに浸透しているシャクティをたたえるものです。

インドでは、二つの主なナヴァラトゥリーのお祭りがあります。一つはチャイトラ・ナヴァラトゥリーで、春に行われます。もう一つは、最も広く国中で祝われるシャラド・ナヴァラトゥリー、またはマハーナヴァラトゥリーです。それは、初秋の最初の新月に始まり、10日目のダセーラの祝祭で最高潮に達します。シッダ・ヨーガの道では、私たちが祝うのはこのナヴァラトゥリーです。

デーヴィーの栄光を称賛し、そして彼女の勝利の物語を伝えるたくさんの教典があります。そのような文献の一つが『デーヴィー・マーハートミヤ』で、『マールカンデーヤ・プラーナ』の中に見られ、ナヴァラトゥリーの伝統を詳しく述べています。この物語の中で、デーヴィーのすべての形を包含する女神マハードゥルガーは、水牛の悪魔マヒシャースラとの闘いに9日間を費やします。悪魔はエゴと無知の力を具現しています。マハードゥルガーは10日目、すなわちダセーラに、暗闇に対する光、悪に対する善の勝利をもって、悪魔を打ち破ります。

ナヴァラトゥリーのハイライトの一つは、夜に行われるデーヴィーの礼拝の一部としてのガルバの踊りです。グループは、デーヴィーの光を表すガルバの炎の周りで同心円を描いて踊ります。彼らは踊りながら、鮮やかな色に塗られ、房や他の装飾品で飾られたダンディヤと呼ばれる小さな棒を、リズムカルにたたきます。

ナヴァラトゥリーの間、シッダ・ヨーギたちは、クンダリニー・シャクティであるデーヴィーのその三つの姿 —— マハードゥルガー、マハーラクシュミー、そしてマハーサラスワティー —— を崇拝します。デーヴィーのそれぞれの姿は、探究者が彼らの本質である光を体験し、そして養うことを支えます。そして、この祝祭の9夜と10日にわたって、シッダ・ヨーギは「ジャヤ・デーヴィー・アーラティー」を歌うことで、さまざまな姿で現れる女神をたたえます。

10月9日～11日

ナヴァラトゥリーの最初の三夜は、無知を打ち消すデーヴィーの姿であるマハードゥルガーをたたえます。マハードゥルガーは、トラにまたがり、神聖な武器を構え、彼女の激しさと穏やかさの両方の顔で、描かれています。彼女は私たちの内側の敵を打ち負かし、私たちの勇気を強くします。私たちが彼女の祝福を求める時、私たちが精神の道でやり抜くことができるように、彼女は私たちが恐れと無知を克服するのを助けます。

シッダ・ヨーガの道で、ナヴァラトゥリーの祝祭の多くのハイライトの一つは、ナーマサンキールタナ —— 「カーリ・ドゥルゲー・ナモー・ナマー」をチャンティングすること —— を通して、デーヴィー、マハードゥルガーの力を呼び起こすことです。

10月12日～14日

ナヴァラトゥリーの次の三夜は、豊穰(ほうじょう)、美、そして吉兆の女神であるマハーラクシュミーをたたえます。彼女はしばしば、ハスの花の中に立ち、あるいは座り、金貨が開いた手のひらから流れ落ちる姿で描かれます。私たちがマハーラクシュミーに祈願し、私たちの中に彼女の恩恵を呼び起こす時、彼女はあらゆる形で富を授け、寛大さを鼓舞し、そして私たちの内側と周囲の世界に、豊かさと美しさを認識するように私たちを助けます。デーヴィー、マハーラクシュミーは八つの姿をとって現れ、それについてはここでさらに読むことができます。このような理由で、彼女はまたシュリー・アシュタ・マハーラクシュミーとも呼ばれています。

シッダ・ヨーギがマハーラクシュミーを呼び起こす一つの方法は、「シュリー・マハーラクシュミヤ
シュタカム・ストートラム」の美しい賛歌を朗唱することです。

10月15日～17日

最後の三夜は、英知、創造力そして芸術表現の具現であるマハーサラスワティーをたたえます。白い衣を身にまとい、片手にヴェーダを持ち、彼女は純粹さと私たちの内側の知識の光を表しています。もう一方の手には、ヴィーナを持っています。これは、内なる大いなる自己から湧き出る、常に新しく、常に再び満ちる創造のインスピレーションを象徴しています。マハーサラスワティーを崇拝することにより、学ぶこと、崇高な思考、そして雄弁かつ真実を話すことが培われます。彼女は、音楽家、芸術家、作家、そして学生たちに靈感を与える存在です。

ここで、さらにマハーサラスワティーについて読み、そして「サラスワティーストートラム」を朗唱することができます。

10月18日

ダセーラはヴィジャヤーダシャミー —— 10日目、勝利の日 —— としても知られます。ダセーラは、悪魔マヒシャースラに対する女神の勝利、至高なる光が広く行き渡ることを表します。

勝利の日としてのダセーラは、他のインドの教典や文献にも同様に表されています。叙事詩、『ラーマーヤナ』によると、この日は、ラーマ神が10の頭を持つ悪魔ラーヴァナを打ち負かした後、ラーマ神、デーヴィーのシータ、ラーマの弟のラクシュマナが、故郷のアヨーダヤの王国に戻った日です。

『マハーバーラタ』では、ダセーラはパーンダヴァ兄弟が13年間の国外追放から戻り、正義を世界に再確立した日です。帰国に伴い、パーンダヴァたちは武器を取り戻し、それらの武器に

プージャーをしました。従って、ダセーラでは、自分たちの職業の道具に敬意を表すのが伝統となっています。

ダセーラは、1年で最も吉兆な3日半の内の1日であると考えられています。(インドでは、吉兆な昼と夜は、伝統的な分単位による太陰暦、パンチャーンガにより決定されます。)このため、プロジェクト、特に知識、芸術、音楽などのプロジェクトを開始するのに、最も好ましい日の一つです。新しい始まり、新鮮なスタートの日であり、天が私たちの新たな努力の成功を支えて、とりわけ豊富な黄金色の祝福を注いでくれるようです。

ジャヤ・デーヴィー！ 神聖な光に勝利を！ ダルマに勝利を！



© 2018 SYDA Foundation®. 著作権所有。